

九州関門地方支部 第 15 回就職支援検討委員会②

就職支援検討委員会

6 月 19 日、福岡市博多区のリファレンス駅東ビル貸会議室で、第 15 回就職支援検討委員会を開催し、船員養成教育機関の先生と九州関門地方支部管内が担当する各海運会社の担当者が出席した。

出席者の内訳は、船員養成教育機関 7 校から 10 人、海運会社 30 社から 47 人、九州運輸局海事振興部から 2 人、本組合から 17 人、合計 76 人が出席した。

学校側の意見（概要）

▽教育の質を担保する教員をいかに確保するかが課題と考えている

▽雇用のミスマッチを防ぐ取り組みに力を入れている。船社には訪船による職場見学などの協力をお願いしたい

▽4 月入社の卒業生ですぐに乗船することを理由に退職している者もいるため、乗船前研修の充実を求めたい。一方、入社後の手厚い研修への感謝や一部癖の強い乗組員に苦慮するなどの意見もある

▽卒業生と SNS でつながっている生徒が多く、先輩の情報に基づき就職先を選定する生徒が多く見受けられる

▽実習船にはボイラーなどの設備がなく実物を見る機会がない。生徒に社船実習など参加を勧めているため協力をお願いしたい

▽自分が望む職務と船種を思い描く学生が増加しており、それに基づき船社を選定している傾向にある

▽福利厚生より賃金を重視する傾向が強まっている一方で業務内容や船内環境とのバランスを考慮している生徒も増加傾向にあると感じている

▽乗船期間を重要視する生徒が多く、私生活を含めて就職先を選定する傾向にあると感じている

▽希望する船種に対し、配乗船の船内環境としてスターリンクなどのインターネット設備などを意識し船社を選択する傾向が強い

「海員だより」